

◎ 木谷氏一族・家臣の古墓群

源平争乱の後、鎌倉幕府の功臣土肥実平（相模国湯河原・早川荘）の子遠平は安芸国沼田荘の地頭職を得、小早川氏を名乗った。その後、安芸国に移住し、安芸国東南部（本郷・沼田）を支配するようになる。小早川氏は本郷町（現・三原市）に高山城を築いて本拠地とし、沼田荘から北西部の舟木・棕梨方面、南部の都宇・竹原荘を押さえていった。さらに南西部や瀬戸内海の島嶼部、三津三浦（木谷・三津・風早）へ港の確保のた

めに進出してくる。

この木谷浦を治めたといわれる木谷氏一族は竹原小早川氏の家老「木谷備中」となり、尾首城を居館とし、木谷氏一族の菩提寺「大慶寺」を建立したと伝える。大慶寺の創建は1379年から1384年といわれ、慶寿院より北方約300mの寺岡に寺跡がある。「宝篋印塔(ほうきょういんとう)」や「五輪塔(ごりんとう)」などの古墓を多く残している。

その後、小早川氏一族は南北朝期から室町戦国時代を通して、次第に支配地域を広げ、生口・瀬

戸田・大崎などの島嶼部へも進出していく。木谷氏一族もそれに従って各地の海戦にも参加するようになる。そして毛利家から入った小早川隆景は三原浮城に拠り、豊臣時代に五大老の一人になるなど全国的に活躍して有名になる。隆景亡き後、木谷氏は毛利氏に従って、関ヶ原合戦（1600）に参戦する。しかし徳川方に敗れ、毛利氏に従って周防国（柳井市阿月）に移るなどして分散してしまった。一族の分かれは讃岐の丸亀に移り住んだという。

大慶寺は江戸時代に入り、開基施主の木谷氏を失った。しかし禅宗として小早川氏の菩提寺である三原の法常寺や米山寺と支え合い、関係を深め享保16年（1731）に曹洞宗・慶寿院となつてのち現在地に移転した。二度の火災を越え、木谷村の総講所祈禱寺となつて現在に至る。大慶寺跡の古墓群も、慶寿院の山腹に移転して祀っている。

宝篋印塔や五輪塔の数は、安芸津町の中でも多い方である。



妙専寺は当初は真言系の寺院で、創建は観応2年（1351）と伝えられる。戦国時代中頃の永正7年（1510）に浄土真宗に改宗し、「光城山・妙専寺」として専修念仏の教えを広め、「安芸門徒」となる。嘉永3年（1850）、火災に

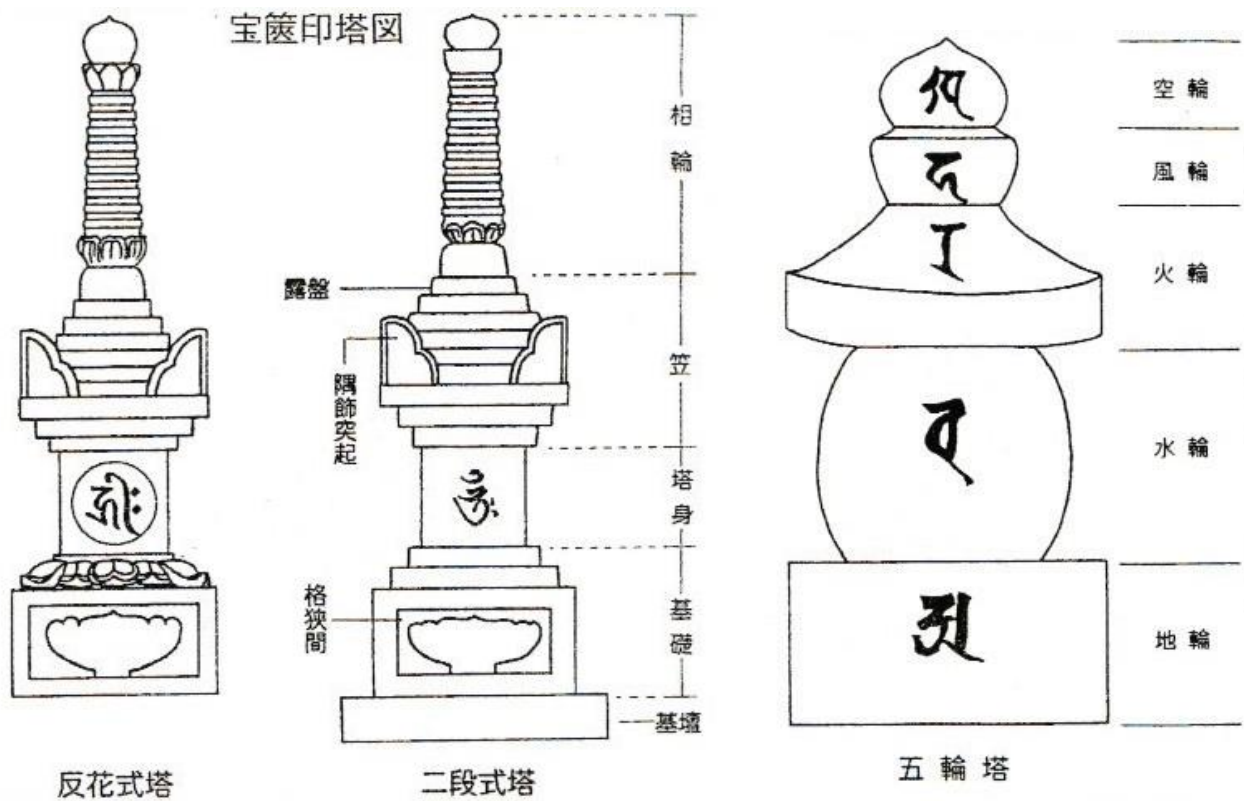
より堂宇や記録を失うが、復興して広く木谷地域の念仏道場として現在に至る。なお妙専寺には木谷で最古・最大の宝篋印塔の一部が残る。

この周辺は尾首城跡、慶寿院（旧大慶寺）、や妙専寺なども集まり、また竹原新庄の木村城に通じる山越えの神谷・在屋道も通り、中世における木谷村の北東の一大拠点であったといえる。

(注) この説明板の絵地図は、矢原大和氏によって描かれたものです。

尾首城跡の所在場所は諸説あります。

◎ 宝篋印塔と五輪塔



宝篋印塔: 中国から伝来、日本で独自に発展。城主級の武士や高僧の墓碑塔や供養塔として造立

五輪塔: 武士階級や村方でも有力者などの墓碑塔や供養塔として造立